

# 北郷中 学校だより

## 夏休みがはじまりました

### 二期期がはじまりました

夏休みが明け、通常通りの学校生活が始まりました。夏休みにはオリンピックが開幕され、先日からパラリンピックが始まりました。本校ではオリンピック、パラリンピックを応援するためにひまわりを育てています。校門横の一人ひとりのひまわりも開花しました。生徒の思いが選手に伝わることを期待しています。

昨日の始業式には元気な生徒の姿が見られ、明るく挨拶も交わすことができ、とても感激しました。また、朝の登校指導に参加して頂きました保護者の皆様、大変暑い中でしたが、生徒たちへの明るい挨拶と声かけをしていただきましてありがとうございます。

静岡県にも緊急事態宣言が発出された中で二期期一日目でしたが、少し緊張した雰囲気の中にも子どもたちの元気な顔を見るのができて嬉しかったです。私たちが教職員一同、より安全な環境づくりのため力を注ぎ、覚悟を新たにしました。そのために学校から情報も速やかに提供できるように、引き続き精査した内容



静岡県にも緊急事態宣言が発出された中で二期期一日目でしたが、少し緊張した雰囲気の中にも子どもたちの元気な顔を見るのができて嬉しかったです。私たちが教職員一同、より安全な環境づくりのため力を注ぎ、覚悟を新たにしました。そのために学校から情報も速やかに提供できるように、引き続き精査した内容

学校だより  
きたごう  
第6号  
令和3年  
8月27日発行  
校訓  
自學・友愛・練磨  
「自ら！ 行動する  
振り返る 創造する」

### 五感を意識したい

STEYホームが呼びかけられ、多くの時間、家庭で過ごすことが増えてきました。夏休み中の時間の過ごし方を振り返ってみると、スマホやパソコンでネットを見てばかりいた人はいませんか。

五感という言葉皆さんは知っているとします。「味覚」「嗅覚」「視覚」「聴覚」「触覚」と言われる五つの感覚のことです。その五感について少し述べたいと思います。五感を使うという事は、そんなに難しいことではありません。私をはじめ、皆さんも普段から使っていると思います。それを

五感という言葉皆さんは知っているとします。「味覚」「嗅覚」「視覚」「聴覚」「触覚」と言われる五つの感覚のことです。その五感について少し述べたいと思います。五感を使うという事は、そんなに難しいことではありません。私をはじめ、皆さんも普段から使っていると思います。それを

わかります。理科の実験や観察では、実際に手に取ったり見たりといった体感を通して学びを構築します。スポーツは、五感に加え思考力、友達との協調力などを使い、体を動かす楽しさを感じます。今行われているパラリンピックに参加している選手の一人、視覚が不自由な方の種目「ゴールボール」の選手、浦田理恵さんは講演会で「私は、できないとか不可能という言葉を数え、悲観的に感じていた。しかし、母親からの言葉『できることを教えてもらえん』から、こんなことができることがあるんだと気づき、自分の可能性を実感することができた」と話されています。五感に不自由がある方こそ、今ある感覚を磨き、できることを増やしていると感じました。

現代に生きる私たちにとって、スマホやパソコンとの関わりは無くしてはならないものです。ですから、そのスマホなどはツール(道具)として上手に利用しながら、自分の感覚も研ぎ澄ませて活用できると、感じる世界も広がったり深まったり、輝いたりするのではないのでしょうか。

今、世の中は大変な時期になり、予測不能なことが次々と起きています。と言われています。行事や部活動など、中止や延期を検討しなければなりません。ですが「できない」で終わりにしたくはありません。安全を確保し、何らかの可能性を模索しながら進んでいきたいと思えます。

オリンピックに引き続き、パラリンピックの選手の一挙手一投足も目を離すことができません。東京2020オリンピック・パラリンピックの成功を祈ります。

(校長 本田 章)

### 教務の席から



0(ゼロ)を1にする事の難しさを感じることがよくあります。前例がないことに挑戦するためには、自分(たち)だけが頑張るだけでは困難です。恐らく、綿密な計画、周りの人たちの理解と協力、そして実行力が必要でしょう。しかし、0から始めなくてはならないと思ってしまうことにも、近い例があるのかもしれない。それが見つかれば、周りの人たちに説明できれば、1にすることが可能かもしれません。

コロナ禍においては、計画を変更することや、今までにないことを行う必要が出てきます。前の号で書いたおやじの会、今までは子どもも大人、人と人との生の交流こそがイベントの醍醐味と捉えていました。しかし、昨今の情勢から大人数が集まっていたイベントが難しく、別の形でできないかと思案しています。前例がないものは理解を得るのが難しいですが、自分たちで目的ややり方を練り、周りに理解や協力をしてもらうために話をしようとしているところですよ。

子どもたちはどうでしょうか。何ができないかもしれない時に、すぐに諦めていないでしょうか。「じゃあいいや。」別にこだわらないし。」そんな声が聞こえてくることもあります。まずは、何かにかこだわり、熱い思いをもって実現に向けて努力することを大切にしたいのです。それに加えて、本校でも大切にしている「自ら粘り強く」ということが大事だと思います。お小遣いの値上げでもいいでしょう。何かを買ってもらったことでもいいでしょう。目的をはっきりさせて、買った(値上げしたら)こんな風に有効に使うとか、プレゼンしてもいいぐらいです。熱い思いを大切に、人生を力強く生きてほしいと思います。

子どもは大人(親)の鏡と言われます。熱い思いを、こだわりの粘り強さを、失っている大人なのかもしれない。自分の意思やこだわりを表現しにくい世の中とも言えるかもしれません。千葉県で「ヘヴィメタル」を聞かせる小松菜を育てるメタル小松菜の取り組みを聞いています。実際、メタルを聞かせても特に変化はないようですが、他の方法を試すことを含めて、続けられれば何かが起こると信じてメタルを聞かせているようですよ。我々が0を1にしていける楽しさややりがいを感じたい。メタル小松菜の会社のように、ヘヴィでメタルなメンタルでいきたいものです。